

|       |        |
|-------|--------|
| 策定年月  | 令和5年1月 |
| 見直し年月 | 令和 年 月 |

# 麦・大豆国産化プラン

産地名：小清水町

（作成主体：小清水町農業協同組合）

# 1. 麦・大豆生産の現状と課題及び課題解決に向けた取組方針

## 【現状と課題】

- ①秋まき小麦
  - ・コムギ縮萎縮病の発生が近年増加しており、今後収量に影響が出てしまうことが危惧される。
- ②春まき小麦
  - ・収穫時期の天候に左右されやすく、年により収量のバラつきが大きい。
- ③大豆
  - ・収穫作業のオペレーター不足や受入施設の受入能力の限界から大豆作付面積が大きく増えない状況である。

## 【課題解決に向けた取組方針】

- ①秋まき小麦
  - ・連作の回避により適正輪作を実施する。
  - ・管理作業および収穫作業時には他ほ場への土の移動が最小限になるよう取り組む。
  - ・コムギ縮萎縮病に有効な栽培技術を実践していく。
  - ・コムギ縮萎縮抵抗性の新品種について情報収集を行い、可能な限り早く品種転換を行っていく。
  - ・排水対策による単収増加。
  - ・土壌分析により有効な肥料成分の吸収を促進し単収増加。
  - ・講習会の開催を通じて情報提供を行い、適正施肥の実施により単収増加。
  - ・新品種試験の実施。
  - ・タンパク分析値を基にした次年度施肥。
- ②春まき小麦
  - ・適期収穫できるよう栽培技術向上に取り組む。
  - ・発芽に強い新品種の情報収集を行い、可能な限り早く品種転換を行っていく。
  - ・排水対策による単収増加。
  - ・土壌分析により有効な肥料成分の吸収を促進し単収増加。
  - ・講習会の開催を通じて情報提供を行い、適正施肥の実施により単収増加。
  - ・タンパク分析値を基にした次年度施肥。
- ③大豆
  - ・大型の収穫機械を導入し、収穫作業効率向上と収穫オペレーター不足の解消を行っていく。
  - ・受入施設の能力強化に取り組む。
  - ・排水対策の実施により、ほ場の滞水による病気が減り、作付け増加を図る
  - ・土壌分析により有効な肥料成分の吸収を促進する効果が期待でき作付増加
  - ・複数の実需者を訪問し、視察および意見交換を実施。

※ 麦・大豆生産における課題(湿害対策、適期播種、土づくり、連作障害対策等の必要性等)を具体的に記載すること。

※ 課題解決に向けて取り組む内容及び今後の生産拡大に向けた方針を具体的に記載すること。

## 2-①. 産地と実需者との連携方針

### (1)小麦

- 今後の北海道産麦において、安定した生産による安定供給を行い、生産・供給された麦が円滑に流通し、確実に消費されるよう、バリューチェーン全体での価値創造が必要。
- そのためには、大手製粉と、道内製粉をはじめとした中小製粉を需要の両輪として、連携を深めていくことが不可欠であり、特に道産小麦の使用割合の高い道内製粉との連携は、大きな役割を担っている。

#### 1. 生産

基本技術の励行とともに、スマート農業など先進的な農業技術の導入、また新品種の普及促進により安定供給を実現する。

#### 2. 消費

実需者とのパートナーシップを強化し、相互理解を深化することにより、バリューチェーン全体で道産麦の価値創造を実現する。

#### 3. 流通

流通の現状を改善し、生産量の増加に応じた流通体制を実現する。

大手製粉メーカー  
～広い視野、面(マス)～

北海道産麦コンソーシアム  
～きめ細かな視点、点(ニッチ)～

- 国内麦の生産振興と使用数量の増加に向けた連携強化。
- 民間流通麦の基本原則(内麦優先、播種前契約、単年度需給、一定の幅)の考え方の共有。
- 計画的出荷および消費地保管の実施(効果的な産地在庫の軽減に向けた連携)。
- 大手2次加工メーカーを巻き込んだ消費トレンドの形成を目指す。

- 3社の特徴を生かした協業化や安定供給体制の構築による需要の創出、道産麦使用比率の上昇を目指す。
- 地産地消など、産地と一体化した取り組みを支援。
- 2次加工メーカーの動向や産地情報等、情報共有プラットフォームの確立。
- 新品種の品質評価・普及計画の共有および2次加工メーカーへの展開・ブランディングを目指す。

※ 産地と実需者については具体的な名称を記載すること。

※ 麦の実需者は、麦を原料とした加工品等の製造を業とする者(製粉会社、製パン会社、製麺会社等)とする。

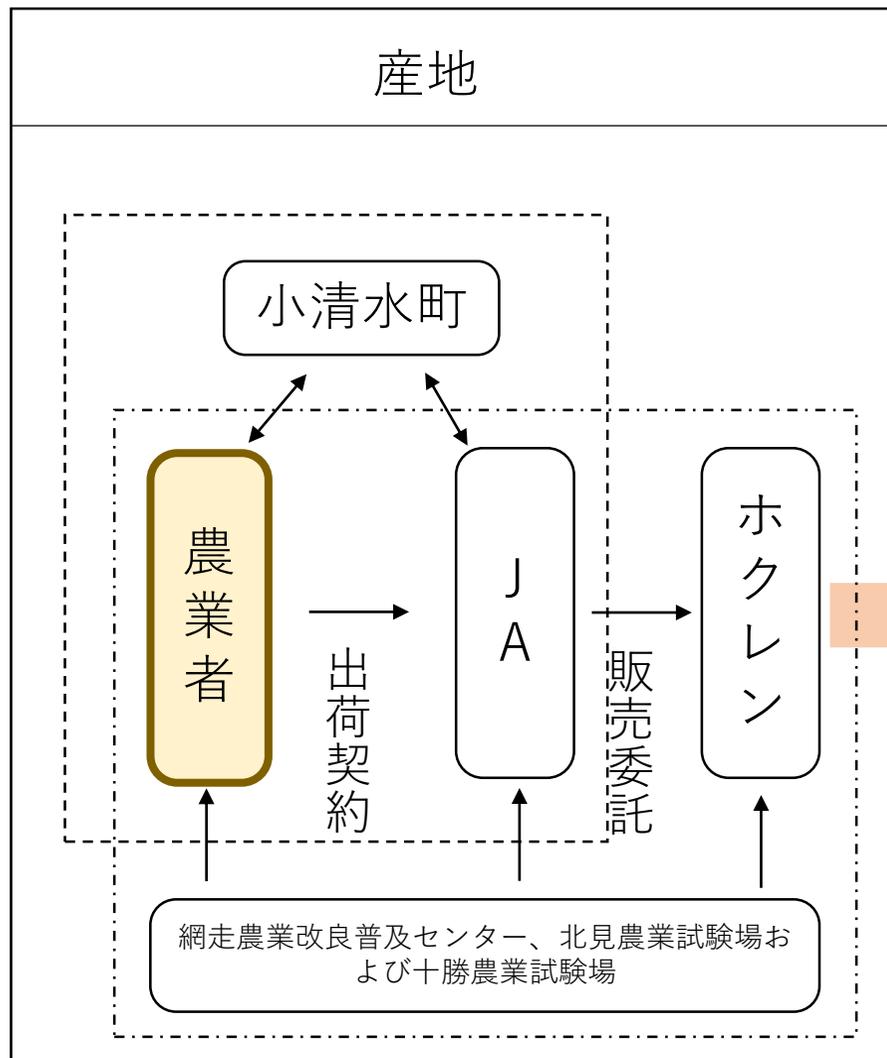
※ 大豆の実需者は、大豆を原料とした加工品等の製造を業とする者、大豆の販売を業とする者及びこれらの者が組織する法人その他の団体とする。

なお、販売を業とする者を実需者とする場合は、その者が販売する先(最終実需者)について、代表的な者の名称を記載すること。

※ 産地と実需者それぞれの国産麦・大豆取扱量の現状とおおむねの目標値を記載すること。

## 2-②. 産地と実需者との連携方針

○連携体制



実需者

非公表

※取扱数量

現状17919t ⇒ 目標20632t

※ 産地と実需者については具体的な名称を記載すること。

※ 麦の実需者は、麦を原料とした加工品等の製造を業とする者(製粉会社、製パン会社、製麺会社等)とする。

※ 大豆の実需者は、大豆を原料とした加工品等の製造を業とする者、大豆の販売を業とする者及びこれらの者が組織する法人その他の団体とする。

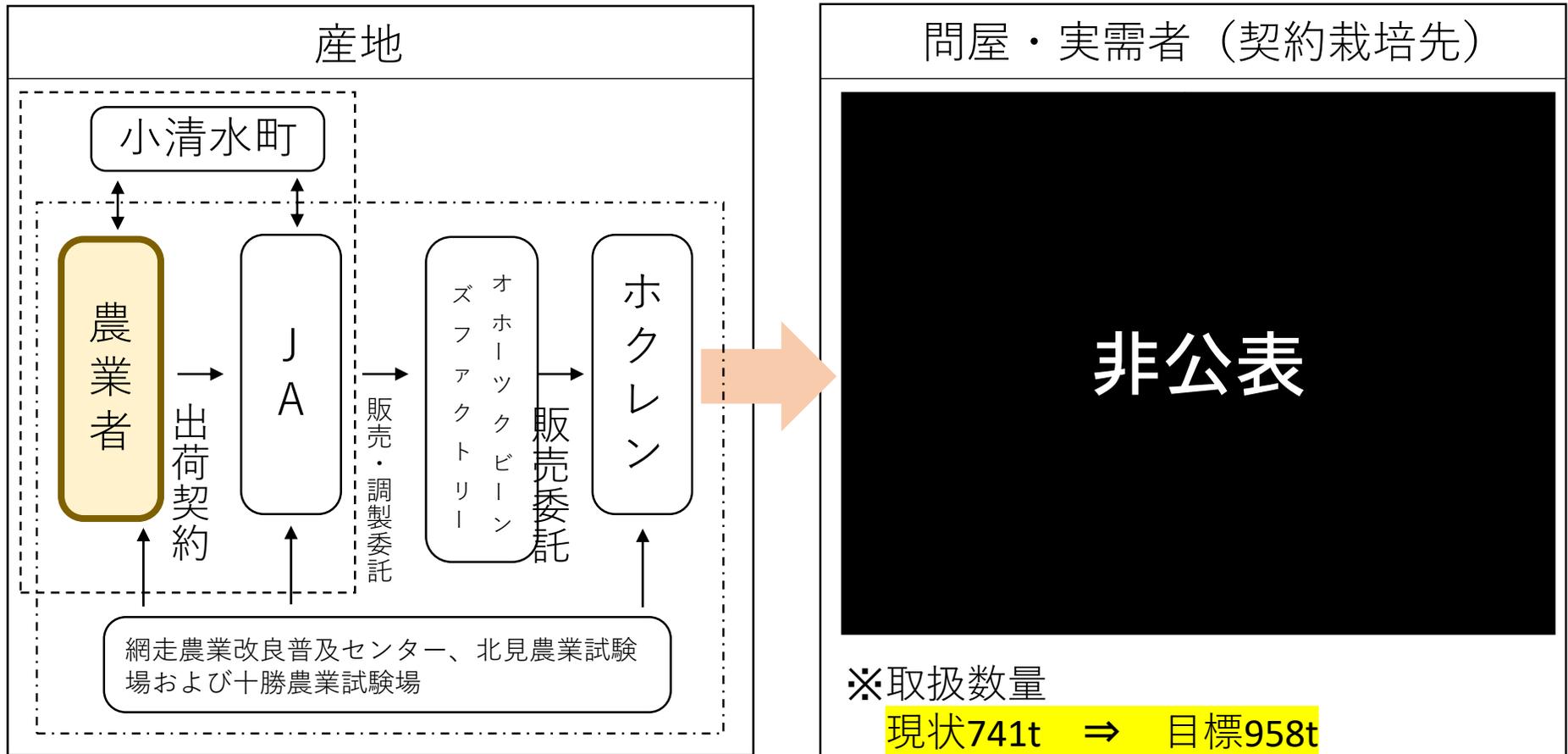
なお、販売を業とする者を実需者とする場合は、その者が販売する先(最終実需者)について、代表的な者の名称を記載すること。

※ 産地と実需者それぞれの国産麦・大豆取扱量の現状とおおむねの目標値を記載すること。

## 2-③. 産地と実需者との連携方針

- オホーツク管内のJAが、オホーツク農協連のオホーツクビーンズファクトリー（OBF）にて一元調製を行い、コスト低減とオホーツク産大豆ブランド力の強化（契約栽培実需者の安定的な確保）に取り組む

### ○連携体制



※ 産地と実需者については具体的な名称を記載すること。

※ 麦の実需者は、麦を原料とした加工品等の製造を業とする者（製粉会社、製パン会社、製麺会社等）とする。

※ 大豆の実需者は、大豆を原料とした加工品等の製造を業とする者、大豆の販売を業とする者及びこれらの者が組織する法人その他の団体とする。

なお、販売を業とする者を実需者とする場合は、その者が販売する先（最終実需者）について、代表的な者の名称を記載すること。

※ 産地と実需者それぞれの国産麦・大豆取扱量の現状とおおむねの目標値を記載すること。

### 3-①. 麦・大豆の国産化に向けた推進体制及び各関係者の役割

#### (1)小麦



|       |              |                                  |
|-------|--------------|----------------------------------|
| 生産    | 農業者          | 需要に応じた品種の作付、輪作や播種前契約の遵守          |
|       | J A          | 栽培管理に関する情報発信、原料受け入れと乾燥調製作業       |
|       | 網走農業改良普及センター | 栽培技術の指導、作況等の情報提供                 |
|       | 小清水町         | JA普及センターと連携して農業者をサポート            |
| 販売・流通 | ホクレン         | 製粉会社との播種前契約締結、相対交渉、産地収容力の確保      |
|       | ホーツク農協連      | 網走市小麦集出荷施設の最大限の活用と、安定流通・集約体制の確立  |
| 実需    | 製粉会社         | 播種前契約に基づく北海道産小麦の計画的な使用           |
|       | コンソーシアム      | JA北海道中央会も含めた道内製粉3社との北海道産小麦のブランド化 |

※ 産地と実需者との連携について、図等を用いて明示すること。

※ 取組の中心となる農業者等を必ず位置付けること。

### 3-②. 麦・大豆の国産化に向けた推進体制及び各関係者の役割

#### (2)大豆



|       |              |                                      |
|-------|--------------|--------------------------------------|
| 生産    | 農業者          | 需要に応じた品種の作付、輪作の遵守                    |
|       | J A          | 栽培管理に関する情報発信、農業者からの出荷の調整・原料受入        |
|       | 網走農業改良普及センター | 栽培技術の指導、作況等の情報提供                     |
|       | 小清水町         | JA普及センターと連携して農業者をサポート                |
| 販売・流通 | ホクレン・全農      | 実需への有利販売（契約栽培）推進、販売交渉、産地への情勢伝達       |
|       | ホーツク農協連      | ホーツクビーンズファクトリーを核とした一元調製・保管、機能性食品等の開発 |
| 実需    | 問屋           | オホーツク産指定実需者の拡大、新規取引先の確保              |
|       | 実需者          | 輸入大豆等から道産大豆への置き換え・PR・商品化、新規需要創出      |

※ 産地と実需者との連携について、図等を用いて明示すること。

※ 取組の中心となる農業者等を必ず位置付けること。